

日本脳外傷友の会第17回全国大会 in 岐阜アピール

日本脳外傷友の会は2000年に3つの家族会で発足した小さな団体でした。発足から17年が経ち、現在では脳血管障害、低酸素脳症などによる高次脳機能障害の後遺症を持つ方々も入会し、全国65団体の連合体として活動しています。

国立障害者リハビリテーションセンターでは「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」として「全国連絡協議会」及び「支援コーディネーター全国会議」など様々な取り組みが行われています。

全国に設置された高次脳機能障害支援拠点機関ですが、その支援にも地域格差が激しく高次脳機能障害支援コーディネーターも他業務との兼務であったり、非常勤職員で賄っている機関があるのも現実です。

また「障害者総合支援法」による障害程度区分に於いてもADLが自立し判定項目に該当しない高次脳機能障害者は生活に困難があるにもかかわらず支援を受けることが出来ずにいます。

今大会のテーマでもあります「家族の元気が当事者の安心」、高次脳機能障害者を抱えた家族が地域で安心して生活できる環境を構築していくことが当事者への安心に繋がっていくとし、以下のことをアピールします。

◎昨年4月に施行されました障害者差別解消法ですが、障害者に対する偏見や差別は社会の中に厳然として残っています。障害者であることが解りにくい高次脳機能障害者（児）に対する誤解や偏見は今なお存在しています。私たちは社会への啓蒙活動を積極的に継続していきます。

◎高次脳機能障害支援拠点機関の充実を図り、障害福祉計画において高次脳機能障害支援が明確に位置づけられるよう働きかけると共に、障害特性に対応できる知識と技術を持った専門性の高い、支援コーディネーターを常勤配置出来るよう制度、政策の整備を要求していきます。

◎高次脳機能障害者（児）が自身の力を発揮できるよう、医療と福祉、友の会と専門機関、教育機関など他職種との連携をさらに強め、援助していきます。

「必死に生きてこそ、その生涯は光を放つ」名将・織田信長の言葉です。

高次脳機能障害の今を生き、皆に支えられながら輝いていきましょう。

私たちは高次脳機能障害者が輝いて生活していけるよう、各地の当事者団体、当事者が共に手を携え活動を展開していきます。

平成29年10月21日

日本脳外傷友の会第17回全国大会 in ぎふ参加者一同